



沼津市観光振興ビジョン (案)



NUMAZU City
TOURISM
PROMOTION VISION

目次

第1章 改定の背景.....	3
第2章 計画期間、点検・評価	4
第3章 観光などの現状	5
1. 国の状況.....	5
2. 静岡県状況.....	6
第4章 本市観光における分析	7
1 人口推計	7
2 本市の状況.....	9
3 観光交流客数の推移	10
4 人流データ	12
5 外国人宿泊客数の推移.....	14
6. 観光振興ビジョン改定懇話会メンバーによる本市の分析.....	18
7 エリア別の本市の魅力の分析	20
1. 西部・北部エリア	21
2. 中心部エリア.....	21
3. 三浦エリア	21
4. 戸田エリア	21
8. 本市観光の特徴(強み・弱み)	22
第5章 観光振興ビジョンの方向性	23
1. 目標	23
2. 基本方針	23
3. 誘客の主なターゲット	24
4. 観光振興ビジョン改定後の数値目標	24
第6章 目標を具現化する4つの柱	25
第7章 目標達成に向けた基本方針および具体的な施策	27
参考資料	39
1. 観光振興ビジョン改定懇話会委員名簿（2025年10月28日現在）.....	39
2. 観光振興ビジョン改定懇話会開催およびパブリックコメントの実施.....	39
(1)観光振興ビジョン改定懇話会.....	39
(2)パブリックコメントの実施	39

第1章 改定の背景

わが国において観光は、21 世紀における重要な政策柱として明確に位置付けられています。急速に成長するアジアをはじめ、世界の観光需要を取り込むことにより、地域活性化や雇用機会の増大などの効果も期待されます。

国は、2003 年の「ビジット・ジャパン事業」を開始して以来、数多くの観光に関する計画を策定し、ビザ緩和など、これまでにない大胆な取組を実施してきました。その結果、訪日外国人旅行者数は大幅に増加しています。一方、国内旅行では、団体旅行から個人旅行へのシフトに加え、日帰り旅行やテーマ・目的を明確にした旅行や体験型観光の人気の高まっています。

このような中、本市は 2006 年3月に「沼津市観光振興ビジョン」を策定し、官民一体となって観光振興によるまちの活性化を推進しました。その結果、観光交流客数は 2006 年度に約 410 万人でしたが、2018 年度には約 450 万人となり、約 10%増加しました。しかし、2020 年度に新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大した影響により、従来にはなかった観光対応が求められ、イベントの開催が著しく制限されるなどの影響で観光交流客数は激減しました。このような状況を受け、2021 年3月に「沼津市観光振興ビジョン」の改定を行いました。

前回の改定から約5年が経過しようとする中で、観光スタイルの多様化やICTの進展、新型コロナウイルス感染症の収束に伴うインバウンドの増加など、観光を取り巻く環境は著しく進化しています。特に 2024 年には、訪日外国人旅行者数が年間合計で約 3,700 万人と過去最高を記録しました。

また、全国各地でアニメ活用や観光受入施設整備の進展などが進むほか、人気の高まる日帰り旅行やテーマ・目的が明確な旅行の需要を取り込む動きも見られます

こうした状況を踏まえ、「沼津ならではの」地域資源を最大限に活用し、官民一体となって観光振興に取り組むことで、更なる交流人口の拡大や地域経済の活性化やシビックプライドの醸成を図るため、「沼津市観光振興ビジョン」を改定します。



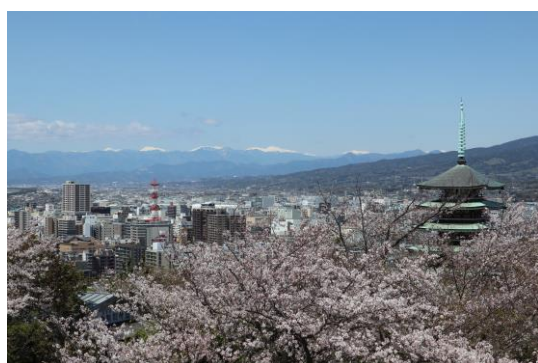
第2章 計画期間、点検・評価

本ビジョンの計画期間は、第5次沼津市総合計画の後期推進計画に合わせ、2026年度から2030年度までの5か年とします。

また、本ビジョンを効果的に推進し、その確実な実現を図ることを目的として、有識者や事業者を含む関係者による施策の点検・評価を毎年行うこととし、計画期間終了年度の2030年度に最終評価を行い、ビジョンの見直しを行います。

年度 関連計画	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
第5次沼津市総合計画 後期推進計画	策定	→					→
沼津市観光振興 ビジョン	改定	→					→
						評価・見直し	

<春>



<夏>



<秋>



<冬>



第3章 観光などの現状

1. 国の状況

国は、2003年に「ビジット・ジャパン事業」を開始し、2006年に観光立国推進基本法を制定しました。これに基づき、直近では、2023年3月に「第4次観光立国推進基本計画」が閣議決定されています。この計画では、観光立国の実現に向け、国が総合的かつ計画的に講ずべき施策として、「持続可能な観光地域づくり戦略」、「インバウンド回復戦略」および「国内交流拡大戦略」が掲げられています。

2019年の訪日外国人旅行者数は、過去最高の3,188万人(前年比2.2%増)となり、訪日外国人旅行者による日本国内での消費額も4兆8,135億円(前年比6.5%増)で、7年連続で過去最高を更新しました。

しかし、2020年から2022年にかけては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、訪日外国人旅行者数は年間を通じて大きく減少しました。その後、2022年6月の外国人観光客受入再開、同年10月の水際措置の大幅緩和などにより、訪日外国人旅行者数は徐々に回復し、2023年10月には2019同月の水準を超えました。

観光庁の発表によると、2024年には堅調な訪日需要や航空便の回復により、東アジアのみならず、東南アジアや欧米豪など幅広い国・地域からの旅行者が増加し、年間で3,687万人(2019年比15.6%増)、消費額8.1兆円(2019年比69%増)と過去最高を記録しました。

国内旅行においては、「令和7年度版観光白書」によると、日本人国内宿泊旅行者数は2024年において、延べ2.9億人(2019年比6.0%減)、国内日帰り旅行者数は延べ2.5億人(2019年比10.6%減)となっています。一方、日本人国内旅行消費額については、宿泊旅行と日帰り旅行を合わせて25.1兆円(2019年比14.5%増)となっています。

「第4次観光立国推進基本計画」の計画期間である3年間は今年度末に終了するため、現在、次期計画の内容について交通政策審議会観光分科会において検討が進められています。この検討では、計画の達成状況の振り返りや、政府目標である「2030年、訪日外国人旅行者数6,000万人・訪日外国人旅行消費額15兆円」達成に向けた議論が行われています。

観光は、社会の変化や情勢に影響を受けるため、国や地方自治体においても、常に柔軟な対応が求められています。

2. 静岡県の状況

県は、2022 年3月に、2022 年度から 2025 年度までの4年間を対象期間とする「静岡県観光基本計画」を策定しました。この計画では、「しずおかの魅力で幸せと感動を呼ぶ観光サービスの創出」、「将来にわたる経済発展に向けた来訪者の受入体制の強化」、「訪れる人と迎える地域の満足度を高める観光DXの促進」という3つの基本方針のもと、観光分野における個別具体的な施策を展開しています。

また、計画中の「地域ごとの観光地域づくり」の章では、伊豆半島地域について「首都圏に近接する日本でも有数の観光地であり、本県の宿泊客数の約6割を占めている」とした上で、「美しい伊豆創造センター（沼津を含めた伊豆半島の 7 市 6 町の観光 DMO）と連携し、国内外からの来訪者のニーズを的確に捉えた観光地域づくりの推進」といった基本方向を示しています。

東部地域については、「首都圏に隣接する地域の優位性を生かした産業立地や観光交流により経済的な発展を遂げている」とした上で、「富士山周辺地域の自然環境の保全や富士山の良好な眺望景観の形成など、美しい富士山の自然と共生する地域の実現」、「プラサヴェルデをはじめとするコンベンション施設の利活用によるMICEの推進」、「沼津港における賑わい拠点づくりの推進」といった基本方向を掲げています。

2024 年度の静岡県観光交流の動向などによると、同年度の静岡県内の観光交流客数は約1億4,034 万人で、前年度比 100.5%となりましたが、パンデミック前の水準に回復したとは言えない状況です。また、県内旅行消費額は 8,359 億円で、前年度比 105.9%（469 億円の増）となり、過去最高額を更新しました。

「静岡県観光基本計画」の計画期間の4年間は今年度末に終了するため、現在、県では、次期計画の策定に向けた検討が進められています。

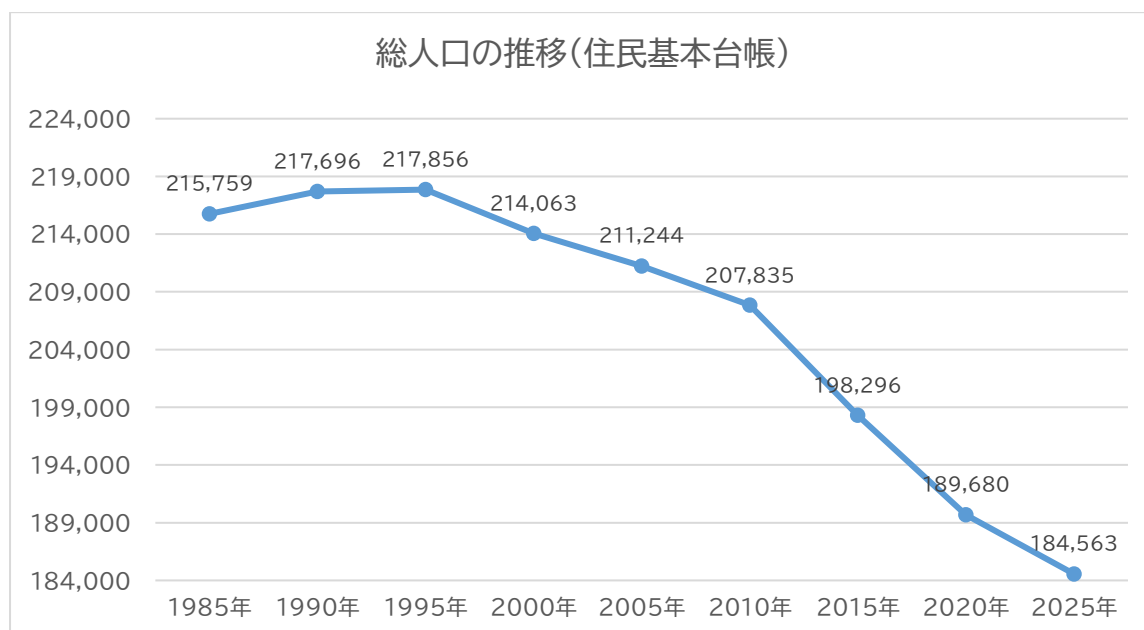


第4章 本市観光における分析

1 人口推計

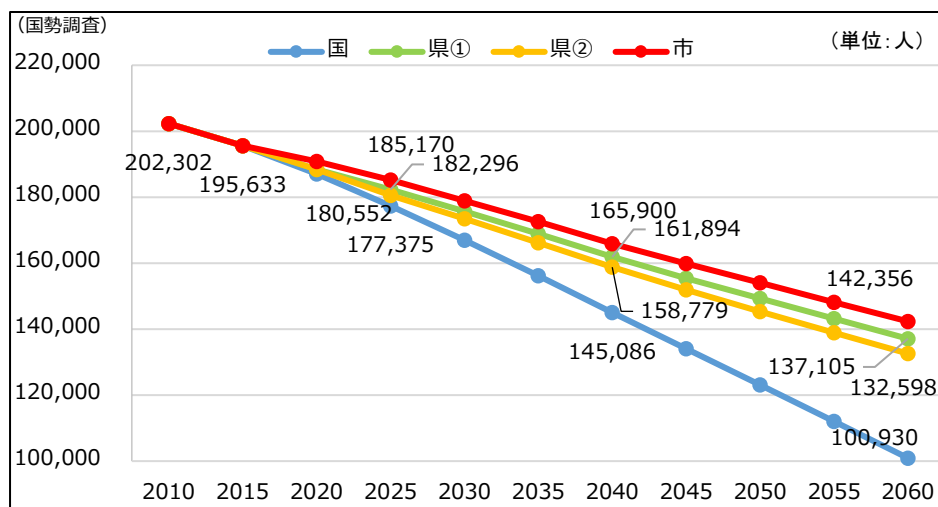
本市の人口は、1995 年の 217,856 人をピークに減少に転じ、2025 年4月には 184,563 人となり、30 年間で約 33,000 人、約 15%減少しています。

国の推計では 2040 年には約 145,000 人まで減少するものと見込まれています。また、2020 年3月に改訂された「沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によると、市の人口減少抑制に係る施策などにより、出生率と純移動率の目標値が達成された場合でも 165,900 人と見込まれており、2019 年度には、49 年ぶりに社会動態がプラスに転じるなど明るい話題はあるものの、今後も人口減少が続くと推計されています。



※各年 4 月 1 日現在、日本人住民数値。1985 年から 2000 年は旧戸田村の人口を含む。

<人口の長期見通しと将来展望>



〔国〕 国立社会保障・人口問題研究所が「日本の地域別将来推計人口」で示した推計方式に準拠し、期間を 2060 年まで延長して、社会増減（移動率）は最近の傾向が今後も続くと仮定している。

〔県〕 合計特殊出生率が①2035、②2040 年以降人口を長期的に一定に保てる水準の 2.07 となり、かつ社会動態が①2025、②2030 年に±0、その後持続した場合の 2 つのシミュレーション。

〔市〕 合計特殊出生率が 2025 年に希望出生率 1.8 に達し、その後 2035 年までに 2.07 へ徐々に上昇、かつ社会動態が 2020 年に±0 となり、その後持続した場合のシミュレーション。

2 本市の状況

本市は、2006年3月に「沼津市観光振興ビジョン」を策定し、「伊豆半島の玄関口として、国内外から静岡県東部・伊豆地域への観光交流の核となる個性ある拠点都市を目指します」という目標のもと、多面的な価値を有する「海」をキーワードとした観光振興によるまちづくりを推進してきました。策定から約15年後、観光スタイルの多様化等を踏まえ、2021年3月、「沼津市観光振興ビジョン」を改定しました。

前回の「沼津市観光振興ビジョン」では、「観光スタイルの変化やICTの進展、インバウンドの増加などの社会の変化に適応しつつ、コロナ禍の影響から新しい生活スタイルに合わせた誘客を進め、人々を惹きつける観光都市づくりを目指す」という目標を掲げ、9項目からなる数値目標を設定しました。現時点で、2024年度の実績として、目標を達成したのは、「ふるさと応援基金寄附金寄附件数(件)」のみになっています。

<前回観光振興ビジョン数値目標>

項目	2019年度実績	2025年度目標
観光交流客数(人)	4,363,178	6,000,000
観光レクリエーション客数(人)※1	3,528,050	4,800,000
宿泊客数(人)	835,128	1,200,000
外国人宿泊客数(人)※2	30,213	100,000
観光ポータルサイト閲覧数(件)	2,184,947	3,000,000
英語版観光ポータル閲覧数(件)※3	—	240,000
ふるさと応援基金寄附金寄附件数(件)	15,963	35,000
地域ブランド調査「魅力度」ランキング(位)	183	99
プラサヴェルデ利用人数(人)	625,644	900,000

※1 観光施設、スポーツレクリエーション施設、行祭事およびイベント等への入場者数・参加者数の合計。主に日帰りの観光客数。

※2 市内全施設の宿泊客数でなく、抽出した宿泊施設からの報告数値

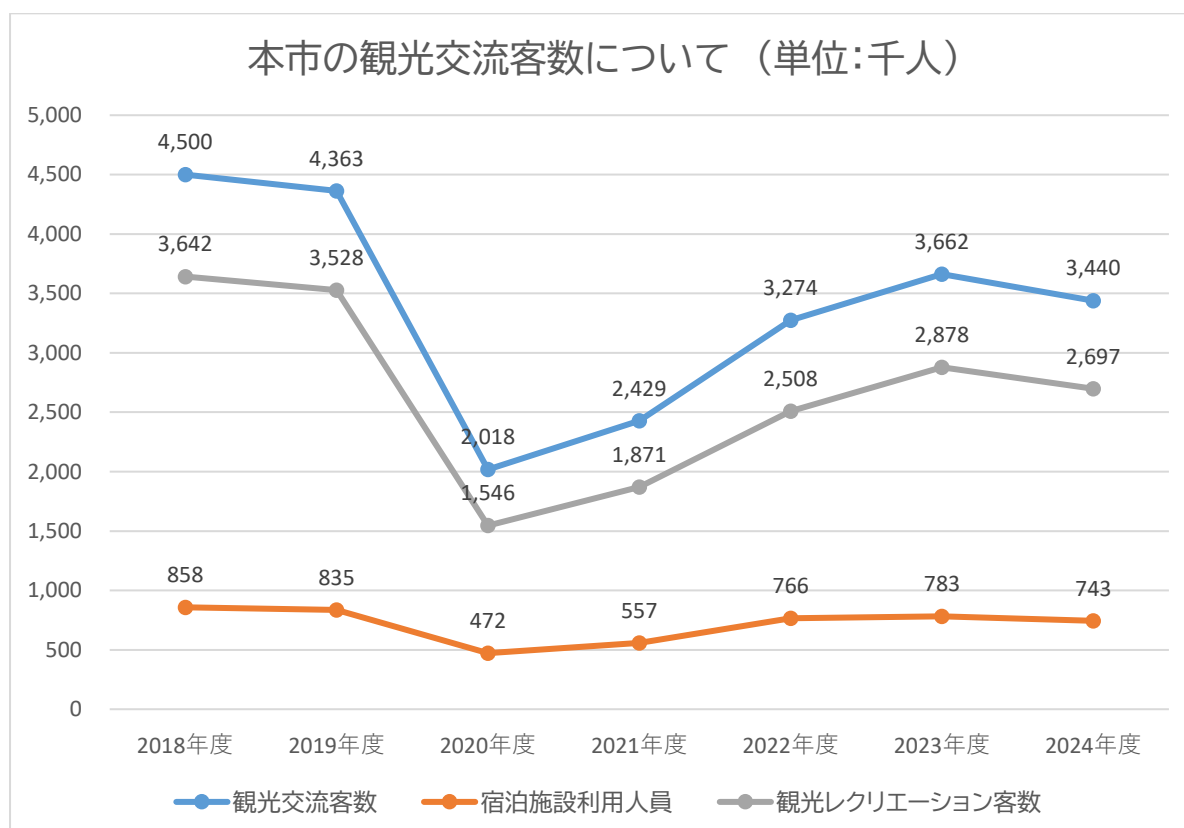
※3 2020年度中に制作

3 観光交流客数の推移

本市の観光交流客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光交流客数、宿泊客数ともに、減少しました。2021年度以降は回復傾向にありましたが、2024年度は2023年度より微減しており、観光交流客数、宿泊客数ともに、パンデミック前の水準には回復していない状況です。

この状況から観光交流客数を増やすためには、「通過される都市」から「立ち寄ってもらえる観光都市」への転換、に加え本市は首都圏からの日帰り旅行が可能な便利な土地であるものの、“宿泊”という選択肢を取っていただくための工夫が必要であると考えられます。

<本市の観光交流客数について（単位：千人）>

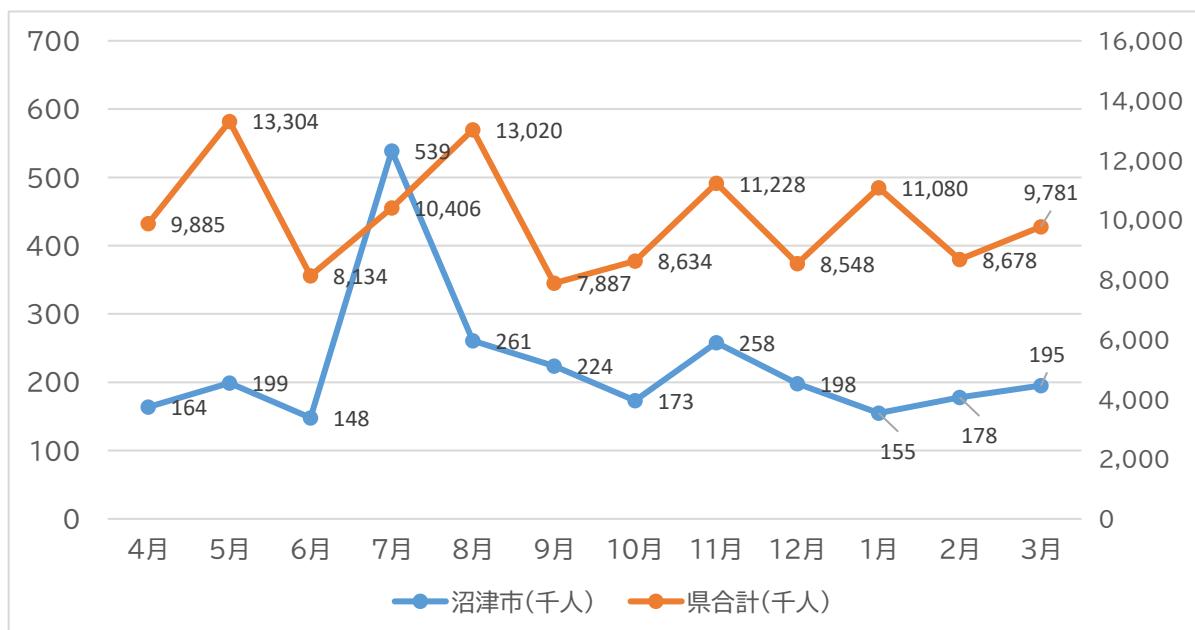


（グラフは、百の位を切り下げて作成）

また、2023 年度及び 2024 年度の県及び本市のレクリエーション客数(主に日帰りの観光客)を確認したところ、本市では、沼津夏まつり・狩野川花火大会の効果により7月に客数が集中している状況です。

これらの状況を踏まえ、通年での誘客を実現するための戦略が必要です。

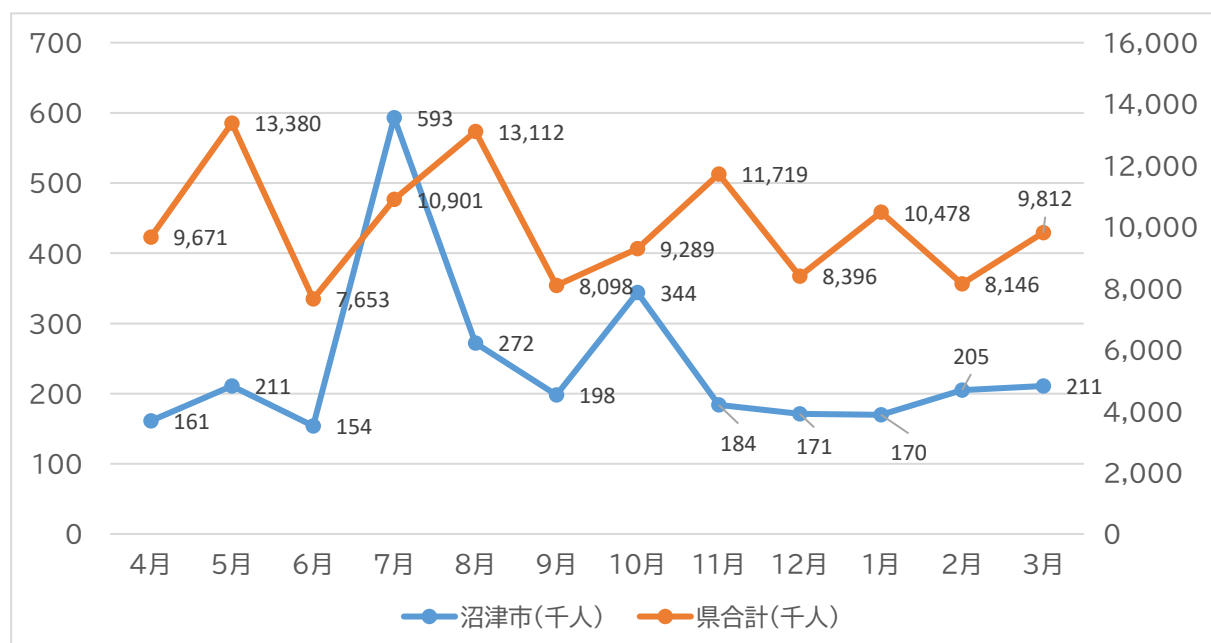
<2024 年度観光レクリエーション客数 (月別内訳)(単位:千人)>



(グラフは、百の位を切り下げて作成)

<2023年度観光レクリエーション客数 (月別内訳)(単位:千人)>

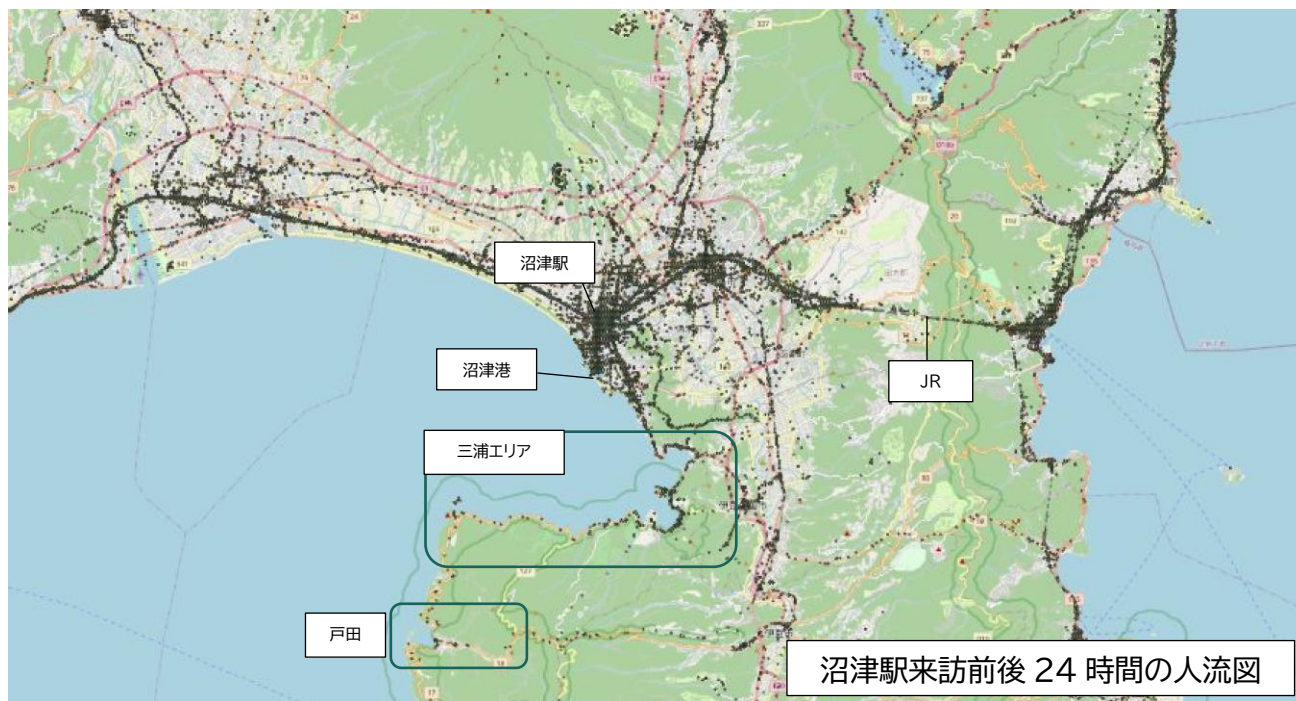
(※10 月は、“第 14 回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会”が沼津市で開催)



(グラフは、百の位を切り下げて作成)

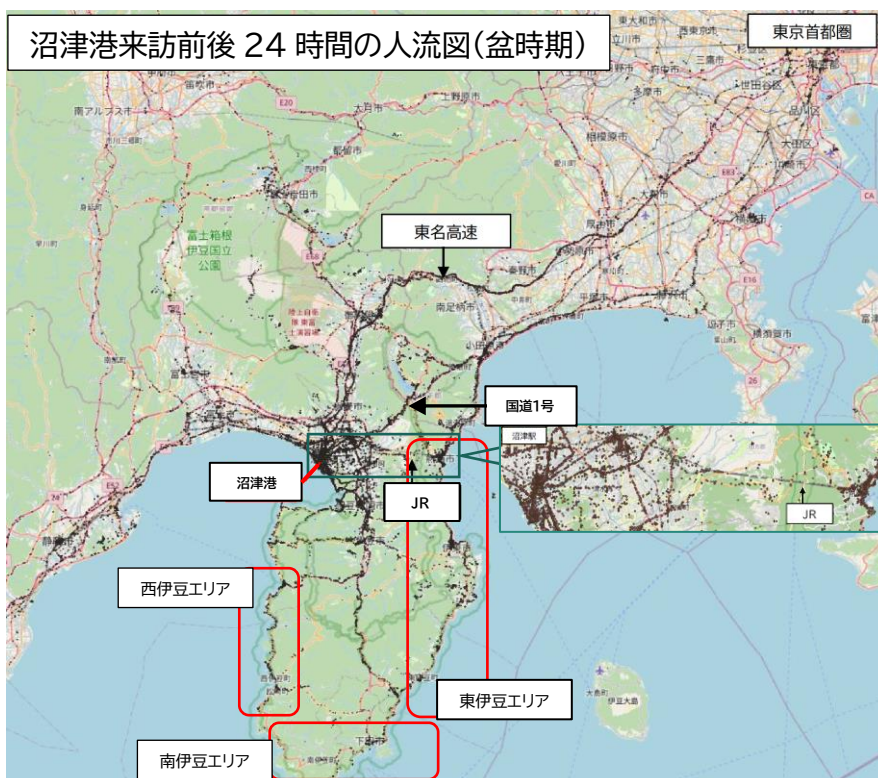
4 人流データ

2024 年度の沼津駅来訪前後 24 時間の人流(日本人及び外国人)を可視化したところ、市内の人流の集積は沼津駅から沼津港間に集中しており、三浦エリア及び戸田には、中心部ほどの人流の集積が認められませんでした。



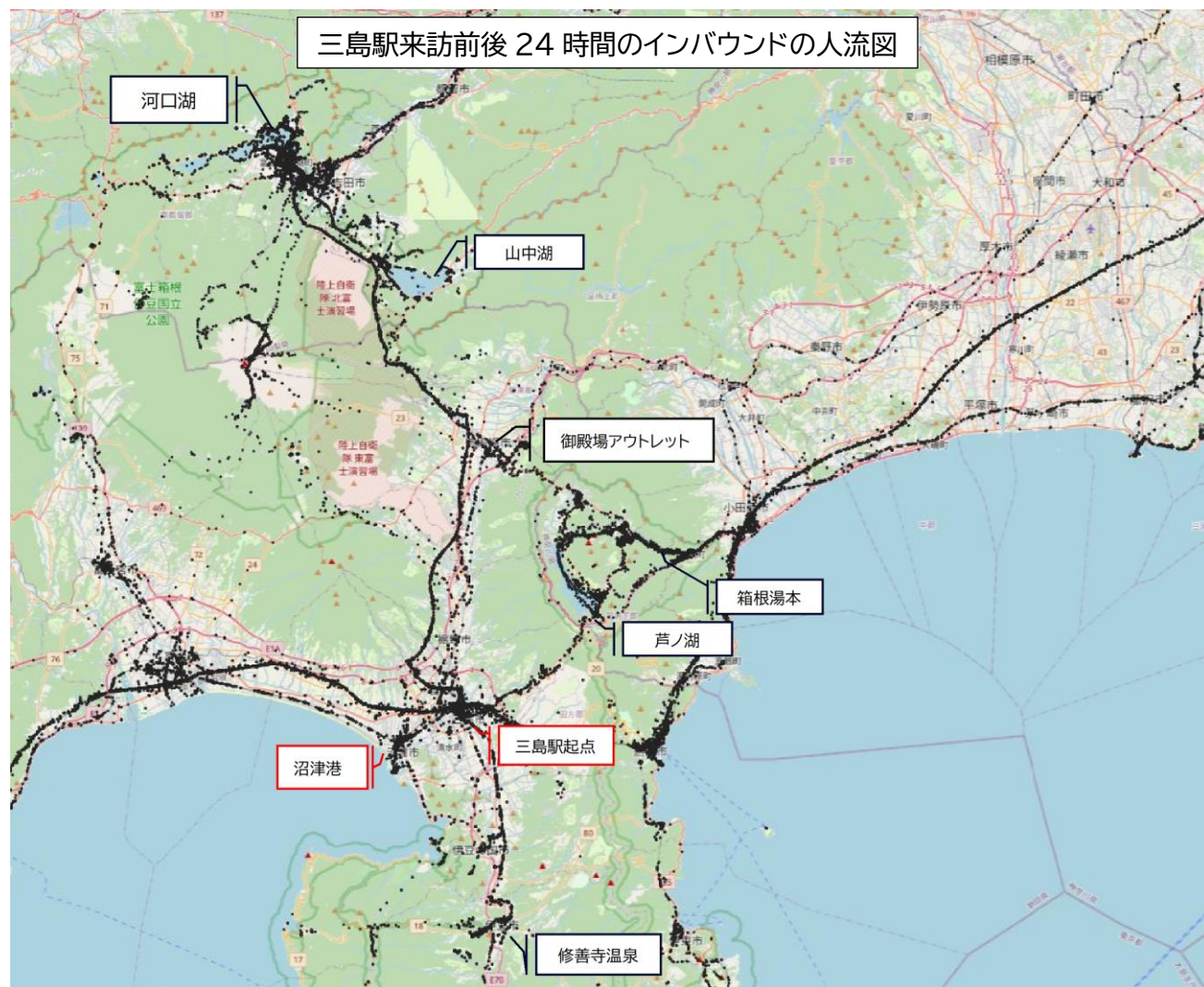
次に、2024年のお盆期間、沼津港来訪前後 24 時間の人流(日本人)を可視化したところ、東京方面等からの人流が多く、移動手段は JR に比べ車が多い事が示唆されています。また、大瀬や戸田などの海沿いにも人流が認められています。このことから首都圏への PR が有効であると認められます。

加えて、近隣の伊豆市及び伊豆の国市の他にも、熱海市や伊東市といった『東伊豆エリア』、下田市や南伊豆町といった『南伊豆エリア』、西伊豆町や松崎町といった『西伊豆エリア』への人流が確認されることから、伊豆半島の広範囲との関連性が示唆されており、広域連携により一層注力することが重要です。



さらに、2024 年度、三島駅来訪前後 24 時間のインバウンド(中国、台湾、米国、韓国及び香港の者)の人流を可視化したところ、箱根や富士五湖との往来が多く見られ、バスでの移動が示唆されています。また、沼津港、三浦及び戸田地区への人流に加え、修善寺方面への移動も確認できました。

この傾向を踏まえ、新幹線三島駅を利用し、バスやレンタカーで近隣自治体を観光しているインバウンドをさらに本市へ呼び込むための施策が必要です。



【留意事項】

- ・ 人流データは、沼津駅の訪問者の位置データを独自分析ロジックによって、地図上にマッピングしている。
- ・ 位置データは個人を特定できないように秘匿化した上で分析を行っている。
- ・ 人流データは視覚化に有効な分析手法であるが、行動の背後にある来訪目的などまでは読み取れない。

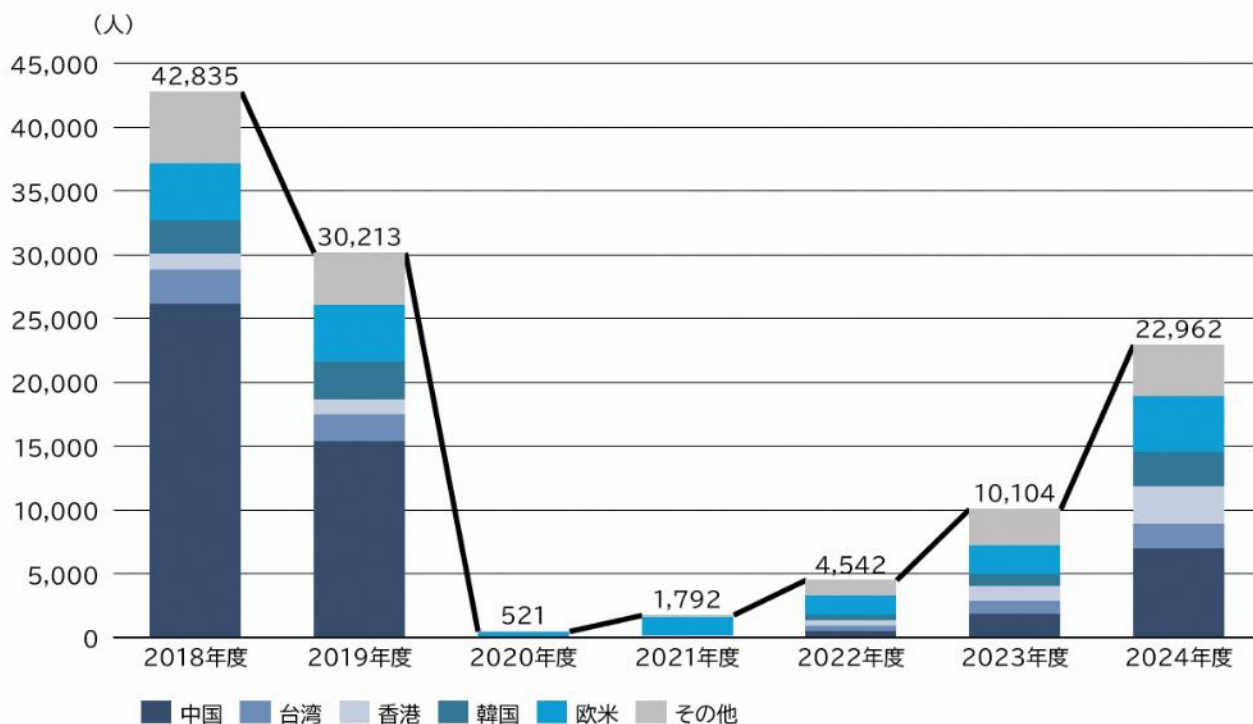
5 外国人宿泊客数の推移

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度の外国人宿泊客数は激減しましたが、その後は回復傾向にあります。しかし、2024年度の実績では、パンデミック前の水準(4万人程度)には回復していません。すでに日本へのインバウンド客数は過去最高を記録し、コロナ禍から回復していることを踏まえると、本市の回復は遅れていると言えます。沼津駅は、首都圏から新幹線および在来線でアクセス可能な「ゴールデンルート」上の好立地にあり、インバウンドの宿泊客の獲得に向け、重点的な取組が必要です。

<各年度の本市の外国人宿泊客数(国別・地域別)(単位:人)>

	中国		台湾		香港		韓国		欧米		その他		合計	対前年度 伸び率 (%)
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	
2018年度	26,139	61%	2,708	6%	1,220	3%	2,653	6%	4,447	10%	5,668	13%	42,835	-
2019年度	15,392	51%	2,128	7%	1,163	4%	2,923	10%	4,426	15%	4,181	14%	30,213	-29%
2020年度	34	7%	3	1%	0	0%	14	3%	388	74%	82	16%	521	-98%
2021年度	134	7%	2	0%	21	1%	47	3%	1,381	77%	207	12%	1,792	244%
2022年度	552	12%	403	9%	426	9%	439	10%	1,456	32%	1,266	28%	4,542	153%
2023年度	1,901	19%	944	9%	1,220	12%	883	9%	2,288	23%	2,868	28%	10,104	122%
2024年度	7,015	31%	1,889	8%	2,932	13%	2,686	12%	4,395	19%	4,044	18%	22,962	127%

※市内全施設の宿泊客数でなく、抽出した施設からの報告数値



次に、2018 年から 2024 年までの全国及び静岡県の外国人宿泊客数を確認します。

国では、2003 年の「ビジット・ジャパン事業」開始以降、2006 年の観光立国推進基本法成立などを受け、直近では、2023 年に閣議決定された「第 4 次観光立国推進基本計画」に基づき、観光振興を推進しています。

具体的な数値目標のもと計画を進めた結果、国全体の外国人宿泊者数は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、パンデミック以前の宿泊者数を上回る状況となっています。

<全国の国・地域別外国人延べ宿泊者数(単位:千人)>

	中国		台湾		香港		韓国		米国		全訪日 外国人客	伸び率
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	(%)
2018 年	22,166	27%	12,104	14%	6,214	7%	11,955	14%	5,576	7%	83,566	-
2019 年	29,848	29%	13,471	13%	6,982	7%	9,715	10%	7,278	7%	101,306	21.2
2020 年	4,165	26%	2,191	14%	1,189	7%	872	5%	1,322	8%	15,893	▲ 84.3
2021 年	328	10%	32	1%	23	1%	86	3%	706	21%	3,438	▲ 78.4
2022 年	992	7%	905	7%	880	6%	1,966	14%	1,994	15%	13,608	295.8
2023 年	10,911	11%	13,230	14%	6,780	7%	14,263	15%	10,574	11%	95,028	598.3
2024 年	25,195	18%	18,406	13%	7,787	6%	17,996	13%	14,485	10%	138,528	45.8

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

県では、直近では、2022 年度から 2025 年度までの4年間を対象期間とする、観光分野の分野別計画である「静岡県観光基本計画」を策定し、誘客に関する施策に取り組んでいます。

この取組により、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復は見られるものの、パンデミック以前の宿泊者数を上回る状況には至っていません。

なお、本市の外国人宿泊客数の中で特に比率の高い中国の延べ宿泊者数は、パンデミック以前の2019 年には約 150 万人であったのに対し、2024 年では約 60 万人にとどまっています。

<県の国・地域別外国人延べ宿泊者数(単位:千人)>

	中国		台湾		香港		韓国		米国		全訪日 外国人客	伸び率
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	(%)
2018 年	1,014	65%	115	7%	33	2%	72	5%	43	3%	1,570	-
2019 年	1,491	71%	100	5%	46	2%	67	3%	58	3%	2,113	34.6
2020 年	118	55%	14	6%	8	4%	8	4%	8	4%	213	▲ 89.9
2021 年	6	9%	0	1%	0	0%	2	2%	6	8%	72	▲ 66.2
2022 年	11	9%	7	6%	6	5%	7	5%	12	10%	126	74.6
2023 年	152	17%	109	12%	69	8%	66	7%	62	7%	904	618.8
2024 年	579	35%	181	11%	86	5%	111	7%	87	5%	1,635	80.9

出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」

2024 年の全国および静岡県の外国人宿泊客数を国・地域別に見ると、静岡県は本市と同様、中国からの宿泊客の割合が高く、全体に占める割合が3割を超えています。一方、全国では、中国以外にも台湾や韓国などからも満遍なく宿泊客が訪れていることがわかります。

なお、観光庁から 2025 年7月に公表された「宿泊旅行統計調査報告(令和6年1~12 月)」の「都道府県別、国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数構成比」によれば、中国人の延べ宿泊者数構成比は、静岡県は 35%と最も高くなっています。

<2024 年国地域別外国人延べ宿泊者数(単位:千人)>

	全国	割合	静岡県	割合
中国	25,195	18%	579	35%
台湾	18,406	13%	181	11%
香港	7,787	6%	86	5%
韓国	17,996	13%	111	7%
米国	14,485	10%	87	5%
その他	54,658	39%	591	36%
合 計	138,528	100%	1,635	100%

出典:観光庁「宿泊旅行統計調査」

中国人の延べ宿泊者数が本市において多い要因の1つとして、富士山静岡空港における国際線の就航先の多くが中国国内であることが考えられます。

本市は首都圏にも近く、東京から箱根や富士山を経て大阪に至る「ゴールデンルート」上に位置していることから、首都圏の空港に発着する外国人観光客を、これまで以上に取り込める可能性を持っています。

<富士山静岡空港の国際線(2025 年冬ダイヤ)>

	就航先
中国	上海、青島
香港	香港
韓国	ソウル



6. 観光振興ビジョン改定懇話会メンバーによる本市の分析

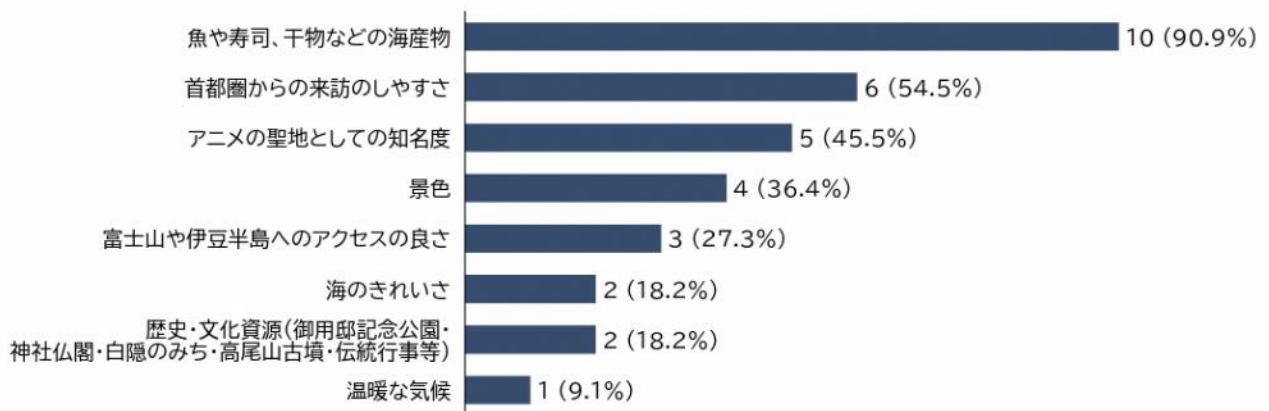
本ビジョンの改定にあたり、「観光振興ビジョン改定懇話会」を開催しました。メンバーは観光関連事業者及び有識者で構成され(11人)、メンバーに対してヒアリングを実施しました。

市民の目線から見た本市観光における主な分析は以下のとおりです。沼津市は、「海産物」という強み、「首都圏からのアクセスの良さ」、「アニメ聖地」としての知名度を持つ一方で、「地域資源の活用不足」や「二次交通の課題」、「地域内の連携不足」など、構造的な課題を抱えています。

<アンケート結果>

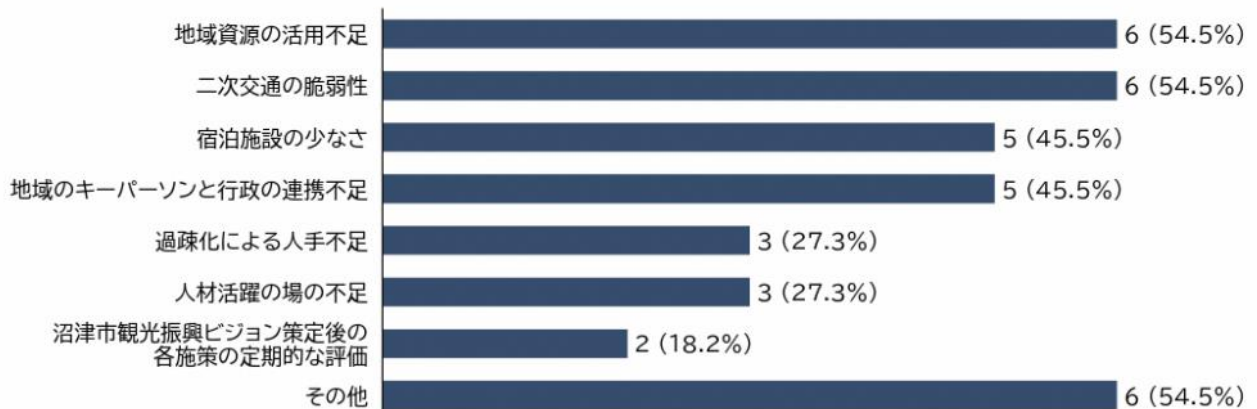
【問】沼津市の魅力や優位性として特に重要と思うものを3つ選んでください。

【回答】



【問】沼津市の観光で課題となっていると感じていることを選択してください(複数選択)

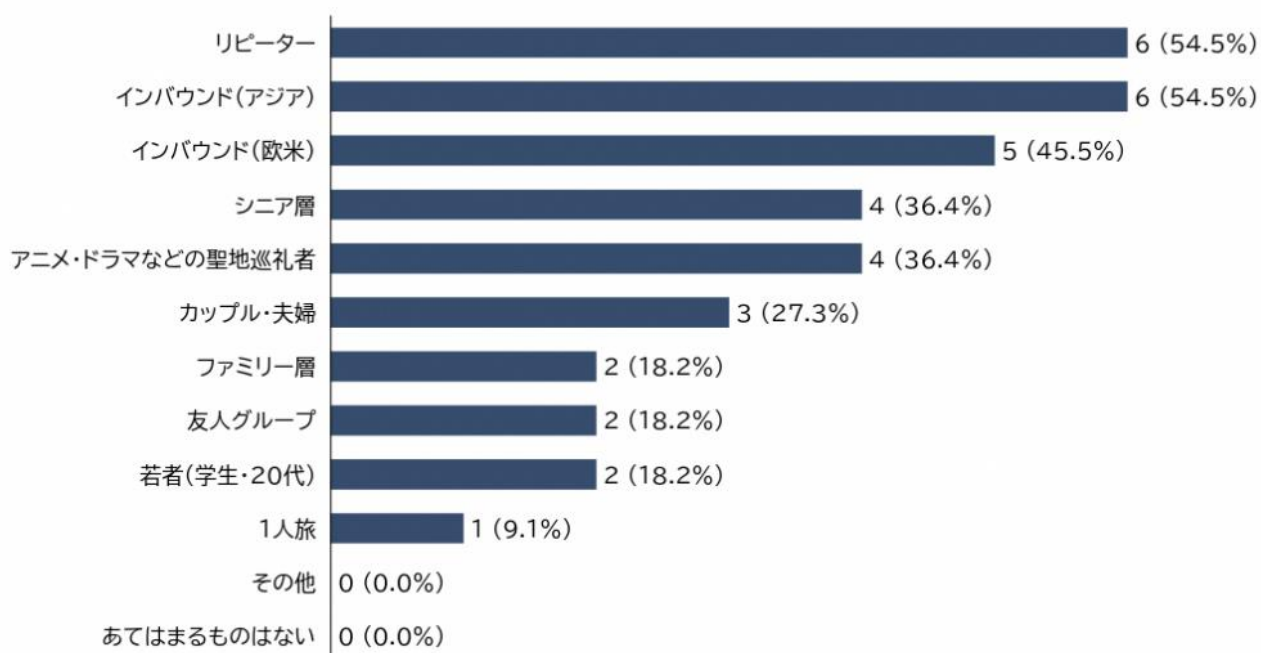
【回答】



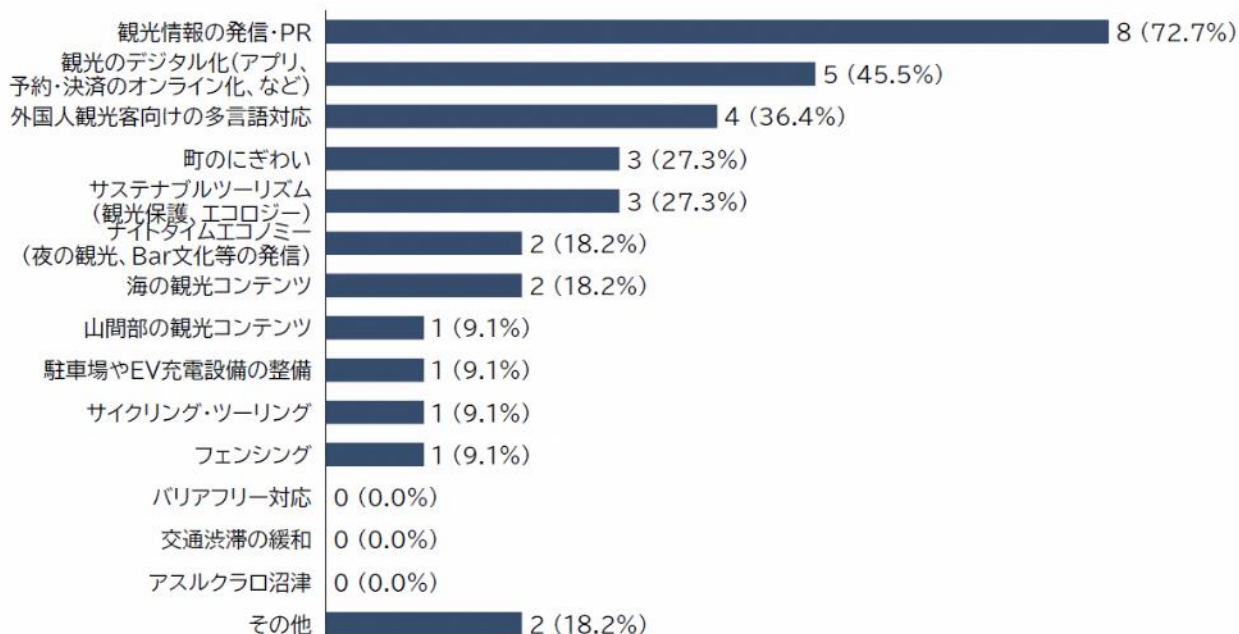
【その他(具体的なご意見内容)】

宿泊施設や飲食店などの多様性不足／沼津市全体としての観光推進体制
SNS等を活用した沼津の魅力など情報発信力不足／日帰り型観光への偏重
アニメ聖地以外の他の観光地への誘客を創出する一手不足／
滞在型観光を支える宿泊・交通・情報発信の基盤整備

【問】今後、沼津市で特に来訪を強化すべき観光客層は誰だと思いますか？



【問】観光を推進するにあたり、特に強化すべきと思うものを3つ選んでください。



【その他(具体的なご意見内容)】

組織体制の構築／ウェルネス & アドベンチャー

7 エリア別の本市の魅力の分析

本市は、富士山と駿河湾に抱かれた風光明媚なまちであり、自然と歴史、そしてあたたかな人々が暮らしています。里山・里海を感じられる豊かな自然に恵まれたエリアがある一方で、首都圏からのアクセスが良好な市街地もあります。

今回も、市内を地域資源の特徴が類似し、歴史的にもつながりの深い4つのエリアに分類し、以下のとおりエリアの魅力を深掘りしたいと考えています。

【浮島ひまわりらんど】



【愛鷹広域公園】



西部・北部

中心部

三浦

戸田

【沼津港】



【御用邸記念公園】



【らららサンビーチ】



【大瀬まつり・内浦にぎわい祭】



【タカアシガニ】



【井田海岸と富士山】



1. 西部・北部エリア

新東名高速道路や東名高速道路に接する、高速道路の玄関口にあたるエリアです。北部エリアには、ゴルフ場をはじめとするスポーツ関連施設が点在する一方、西部エリアでは旧東海道の宿場町が置かれていたほか、周辺には歴史浪漫を感じられる名刹や名所旧跡が点在しています。また、千本浜から続くゆるやかな海岸線や愛鷹山周辺には茶畑があり、釣りや地引網、農業体験などを楽しむことができます。

【松蔭寺と白隠禅師】



2. 中心部エリア

【沼津港】



JR 沼津駅やバスターミナル、沼津港が立地するなど、公共交通の利便性が高いエリアです。沼津駅から 2km 圏内には海・山・川があり、自然と共存できる環境にあるため、身近に登山やマリンスポーツを楽しむことができます。また、本市最大の観光スポットである沼津港に隣接する飲食店街では、寿司をはじめとする海産物やさまざまなグルメを堪能できるほか、皇室ゆかりの沼津御用邸記念公園にもアクセスしやすく、短時間でまちなか観光を満喫できます。

3. 三浦エリア

ダイビングやシュノーケリング、ウィンドサーフィンなど、海の魅力を満喫できるマリンスポーツや、駿河湾越しに富士山を望む海岸線沿いのサイクリングなど、スポーツを堪能できるエリアです。このエリアには、映画やドラマのロケ地が点在しています。また、アニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」の主な舞台ともなっており、本市におけるロケ地観光の拠点という一面も持っています。

【らららサンビーチ】



4. 戸田エリア

【深海魚】



日本一の深さを誇る「駿河湾」に面していることから、このエリアでは、水揚げされたばかりの深海魚やタカアシガニを見て、触れて、食べて楽しむことができます。さらに、水質がきれいな海水浴場の一つである井田海水浴場のほか、ロシアと関わりのある戸田港まつり、パワースポットでもある諸口神社など、オンリーワンの海の魅力にあふれています。また、海と山の雄大な自然に抱かれた空間では、都会の喧騒から離れたスローライフを満喫することができます。

8. 本市観光の特徴(強み・弱み)

今までに明らかとなったデータ等から、本市観光の強みや弱みについて SWOT 分析を活用してまとめると、以下のとおりとなります。本市の「強み」を最大限に活かし、積極的な戦略をとることや、外部環境のプラス要因である「機会」を活かすために、「弱み」を補強・改善することが重要です。

<p>Strengths(強み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚や寿司、干物などの海産物ブランド ・ 西浦みかん、沼津茶などの地域特産物 ・ 海・山・川に代表される豊かな自然環境 ・ 年間を通じて人をひきつける温暖な気候 ・ 駿河湾越しの富士山という唯一無二の景観 ・ 「水がきれいな海水浴場」としての高い評価 ・ 多様なマリンレジャーやアクティビティの提供 ・ 首都圏からの良好なアクセスと地理的優位性 ・ アニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」の聖地としての高い知名度 ・ 港、自然景観、歴史・文化施設などの多様な観光資源が市内に点在 	<p>Weaknesses(弱み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源の活用不足 ・ 二次交通の脆弱性(多様な観光ニーズへの対応) ・ 宿泊がGWや夏季休暇等の大型連休に偏っている ・ 多様な宿泊ニーズに対応できていない ・ 地域の関係者を巻き込んだ観光推進体制が構築されていない ・ 旅行客の滞在時間が短く、通過型観光地となっている ・ 観光素材はあるが、魅力的な旅行商品として発信し切れていない ・ 観光客の誘致、滞在時間の延長、消費拡大につなげられていない ・ 中心市街地に人が集まり、市全体への回遊性が見られない
<p>Opportunities(機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「近場リゾート」志向による首都圏からの来訪意向の高まり ・ ワークेशनやリモートワーカー誘致の機運 ・ アニメ・コンテンツツーリズムの継続的な人気と新展開 ・ インバウンドの本格的な回復に伴う東アジア・欧米豪からの流入 ・ 伊豆・箱根・富士山エリアとの広域連携による周遊促進 ・ 環境配慮型・体験型・サステナブルツーリズムへ※の社会的関心の高まり ・ 観光 DX、ICT の進展によるデジタルマーケティングや多言語化への対応 	<p>Threats(脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱海・伊東・三島・富士といった競合観光地との誘客競争の激化 ・ 人口減少による地域経済の縮小と担い手不足 ・ 地元事業者の高齢化と後継者不足 ・ 災害リスク(地震・津波)による観光需要への影響 ・ コロナ禍以降の消費マインドの変化と多様化するニーズへの対応

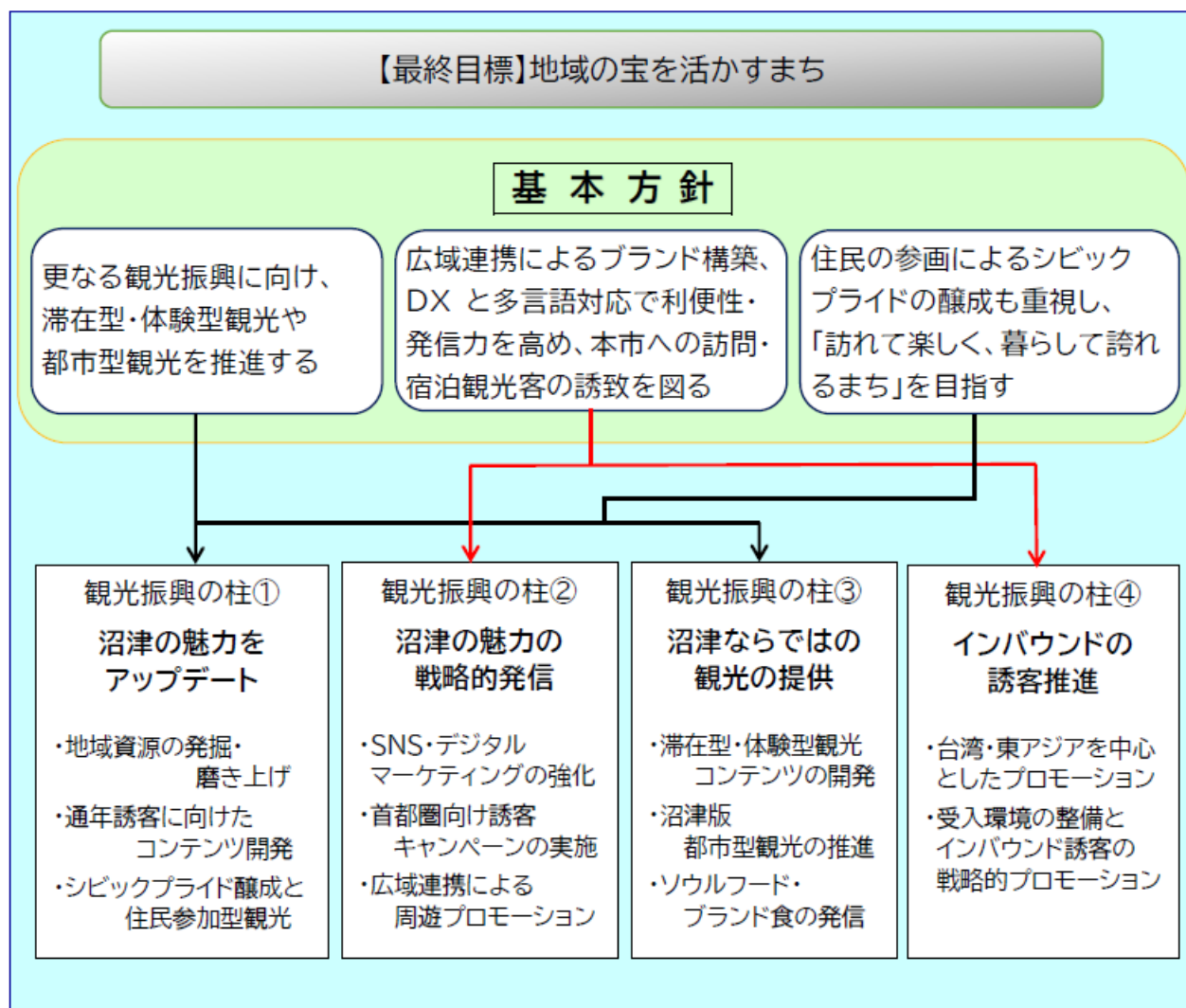
※“持続可能な観光”のこと。観光地の本来の姿を持続的に保つことができるように、観光地の開発やサービスのあり方を見定め旅行の設定を行うことをいう。

第5章 観光振興ビジョンの方向性

1. 目標

海・山・川の自然や沼津御用邸記念公園をはじめとする歴史・文化資源は沼津の誇りであり宝です。そして、豊かな自然環境は、これらを活用したアクティビティだけでなく、海の幸、山の幸をはじめとする豊富な食文化を生み出しています。

首都圏に近くアクセスしやすい立地優位性や、誇れる地域資源を活かし、多くの人が行ってみたい、住んでみたい、関わってみたいと思える「地域の宝を活かすまち」を目指します。



2. 基本方針

更なる観光振興に向け、滞在型・体験型観光や都市型観光を推進します。

また、広域連携によるブランド構築、DX・多言語対応による利便性と情報発信力の強化を進め、本市への訪問・宿泊観光客の誘致を図ります。

さらに、住民参画によるシビックプライドの醸成を重視し、「訪れて楽しく、暮らして誇れるまち」を目指します。

3. 誘客の主なターゲット

本市は首都圏に近く、東京から箱根や富士山を経て大阪に至る「ゴールデンルート」上に位置するという地理的優位性を生かし、これまで同様、首都圏からの誘客に加えて、インバウンドの獲得を推進します。

特に台湾については、高雄市との観光交流促進協定や、美しい伊豆創造センターと台湾観光協会との包括的連携協定締結を踏まえ、より一層のプロモーションを進めます。さらに、東アジアからのインバウンドを中心にリピーターの誘客にも力を入れていきます。

4. 観光振興ビジョン改定後の数値目標

今後、一層の観光振興を図っていくためには、本市の観光の特徴や現状を踏まえ、計画最終年度における数値目標を設定し、その達成に向けて官民が連携し、各ステークホルダーが毎年の振り返りを行うことが重要です。具体的には、関係者で定期的に集まり、意見交換を行い、PDCA サイクルを回す取組を着実に積み重ねていく必要があります。

沼津の魅力を広く発信するとともに、沼津ならではの地域資源を活用した様々なツーリズムを創出し、国内外からの誘客と周遊観光の促進を図ることで、観光交流客数 500 万人を目指します。

＜観光振興ビジョン改定後数値目標＞

項目	2024 年度 実績	2030 年度 目標
観光交流客数(人)	3,440,955	5,000,000
観光レクリエーション客数(人)※1	2,697,783	4,100,000
宿泊客数(人)	743,172	900,000
外国人宿泊客数(人)※2	22,962	50,000
観光ポータルサイト閲覧数(件)	2,579,928	3,300,000
英語版観光ポータル閲覧数(件)	24,490	50,000
ふるさと応援基金寄附金寄附件数(件)	359,697	400,000
プラサヴェルデ利用人数(人)	530,698	700,000
道の駅くるら戸田利用人数(人)	143,145	200,000

※1 観光施設、スポーツレクリエーション施設、行祭事およびイベント等への入場者数・参加者数の合計。
主に日帰りの観光客数。

※2 市内全施設の宿泊客数でなく、抽出した宿泊施設からの報告数値

第6章 目標を具現化する4つの柱

本市は、海産物に代表される地域の強みと首都圏からのアクセスの良さ、アニメ聖地としての知名度を持つ一方で、地域資源の活用不足、二次交通の課題など、構造的課題を抱えています。また、コロナ禍を契機とした個人向け・体験型観光への転換に対応するため、従来の団体向け観光から脱却し、質の高い滞在型観光への転換が急務です。

以上を踏まえた戦略的な観光振興を推進するため、4本の観光振興の柱を掲げ、その柱に基づき具体的な施策を実行します。施策の遂行にあたっては、現状を分析し、有識者や事業者などの地域の関係者との連携を強化する機会を創出するとともに、施策の点検・評価等による進捗管理を行います。

また、持続可能な観光を実現するため、多様な財源確保に向けた検討も進めます。



観光振興の柱① 沼津の魅力をアップデート

日本人観光客、そしてインバウンド(アジア圏・欧米からの来訪者)それぞれのニーズを踏まえ、本市の魅力を再整理する必要があります。

再整理にあたっては、地域資源の発掘・磨き上げ、ナイトタイムの活用、四季折々のイベント、文化体験などを通じ、通年での誘客促進と滞在時間の延長を意識します。なお、訪日外国人客については、多言語表記やガイド体制が来訪体験の満足度を大きく左右するため、魅力が伝わる工夫が必要です。

<関連の数値目標>

項目	2024 年度 実績	2030 年度 目標
宿泊客数(人)	743,172	900,000
道の駅くるら戸田利用人数(人)	143,145	200,000

観光振興の柱② 沼津の魅力の戦略的発信

SNSの「ハッシュタグ」機能等を有効活用し、国内外問わず潜在的な観光客層に本市の魅力を届けることが重要です。

本市の魅力を戦略的に多言語で SNS や HP 等により発信します。

<関連の数値目標>

項目	2024 年度 実績	2030 年度 目標
観光ポータルサイト閲覧数(件)	2,579,928	3,300,000
ふるさと応援基金寄附金寄附件数(件)	359,697	400,000

観光振興の柱③ 沼津ならではの観光の提供

「駿河湾越しの富士山」、「港町文化」、「深海」など、本市ならではの魅力を核にコンテンツを検討し、体験・滞在型観光としての価値を高めます。

また、中心部の食、スポーツ、文化などの拠点を活かし、「沼津版 都市型観光」を推進します。

<関連の数値目標>

項目	2024 年度 実績	2030 年度 目標
観光レクリエーション客数(人)	2,697,783	4,100,000
プラサヴェルデ利用人数(人)	530,698	700,000

観光振興の柱④ インバウンドの誘客推進

本市のメインターゲットである東アジアからの誘客・リピーターに寄与できる施策に取り組みます。

特に親日的でリピートの見込める台湾については、高雄市との観光交流促進協定や、美しい伊豆創造センターと台湾観光協会との包括的連携協定を最大限に活用し、より一層のプロモーションを進めます。

<関連の数値目標>

項目	2024 年度 実績	2030 年度 目標
外国人宿泊客数(人)	22,962	50,000
英語版観光ポータル閲覧数(件)	24,490	50,000

第7章 目標達成に向けた基本方針および具体的な施策

観光振興の柱① 沼津の魅力をアップデート

基本施策1 地域資源の発掘・磨き上げ

本市はすでにナンバーワンやオンリーワンの魅力にあふれていますが、観光客の目的地となるためには、さらに「沼津ならではの」魅力を磨き上げる必要があります。また、沼津駅前や沼津魚市場のにぎわいを、三浦や戸田といった他エリアへ波及させる取組も検討します。

エリアごとの魅力や来訪理由を踏まえてターゲットを設定し、地域資源の発掘・磨き上げ・最適化を進めます。さらに、地域資源とコンテンツを組み合わせ、観光価値の向上につながる取組を検討します。

観光客の来訪が夏に偏っている現状を踏まえ、春・夏・秋・冬を通じて誘客を図るべく、季節ごとのイベント(桜・紫陽花・紅葉・冬の富士山等)のPRを強化します。

【西部・北部エリア】

- エリアビジョン:歴史・文化と体験観光

エリア戦略

キーワード:

千本松原／阿野全成と大泉寺／白隠禅師／興国寺城址／高尾山古墳／帯笑園／日本酒

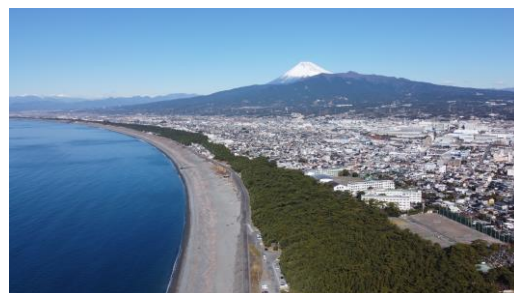
本エリアの沼津市原地区周辺には、白隠禅師にゆかりのあるスポットが点在しています。また、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」関連の阿野全成のお墓がある「土詠山大泉寺」も本エリアにあります。

さらに、2024年10月11日付で「高尾山古墳」が国指定史跡となりました(沼津市の国史跡指定は興国寺城跡以来30年ぶり)。白隠禅師、阿野全成・大泉寺、高尾山古墳に代表される本エリアの歴史・文化と体験観光を発掘・発信していきます。

【大泉寺】



【千本松原】



【興国寺城跡】



【帯笑園】



【中心部エリア】

- エリアビジョン:食とアクティビティの沼津版 都市型観光

エリア戦略

キーワード:

都市型観光／ナイトタイムエコノミー／沼津のソウルフード／皇室とのゆかり／MICE

沼津港は、本市の観光の核となるスポットです。「びゅうお」のライトアップがリニューアルされ、平日、週末、休日で異なるパターンの夜景が楽しめます。また、クラフトビール人気の高まりを背景に、中心部にはクラフトビールのタッブルームや「ジン」の醸造所があり、沼津市ならではの Bar 文化も根付いています。このように、本エリアは、ナイトタイムエコノミーに期待できるエリアであり、首都圏から日帰りも可能な利便性を持ちながら、宿泊の呼び水となる環境が整っています。

「魚がおいしい沼津」のブランドは高い誘客力を持ち、沼津港は既存のバス路線でアクセスしやすい立地です。沼津港で新鮮な海産物を堪能できるほか、遊覧船による湾内クルーズも楽しめます。さらに、市内では沼津のソウルフード(餃子、パン、パスタなど)も提供され、食の魅力が豊富なエリアです。

皇室ゆかりの地である「沼津御用邸記念公園」では、奥駿河の自然が楽しめるほか、園内で抹茶を味わえ、売店では、皇族のお印を刺繍したお土産品やオリジナル和菓子などが販売されています。文化的要素が強く、特にインバウンドに対して高い誘客効果が期待されます。

東京駅から新幹線経由で約 70 分、沼津駅から徒歩 3 分という好アクセスに位置するプラサヴェルデは、富士山を望める会議場施設・展示・イベント施設・ホテルを備えた総合コンベンション施設ならではの都市的魅力を活用し、国際会議や音楽ライブ、イベントなどの開催支援を行い、国内外からの誘客を図ります。

一方、沼津アルプスや狩野川などの自然的魅力を活用した観光振興も進めます。香貴山では地域や関係団体等の協力を得て階段や手すりの保全整備を実施しており、初級者から上級者まで楽しめるハイキングコースです。今後も沼津アルプスの安全対策などを進めます。

本エリアは、引き続き多くの来訪者を魅了する沼津市の観光の核として、誘客を牽引し、他エリアへの観光客の波及を目指します。

【沼津港「びゅうお」】



【沼津御用邸記念公園】



【三浦エリア】

- エリアビジョン:体験型観光

エリア戦略

キーワード:

海水浴場／マリンアクティビティ／聖地巡礼／新鮮なアジ／西浦みかん

本エリアの海水浴場は、複数年にわたり環境省の発表する「水浴場(開設前)の水質調査結果」で水質が特に良好な水浴場に出選されており、ビーチの魅力は折り紙付きです。また、透明度の高い海で楽しめるアドベンチャー感あふれるマリンアクティビティも提供されています。

漁協ではアジの養殖に取り組んでおり、アジフライやアジのタタキ定食などを提供しています。また、遊漁船による駿河湾での舟釣り体験も可能です。さらに、西浦みかんの産地として、果汁100%のジュースやワインなど、魅力的な商品も開発されています。

文豪ゆかりの宿や離島の宿もあり、本エリアならではの都会の喧騒から離れた宿泊が楽しめます。

また、「ラブライブ！サンシャイン!!」の聖地でもあり、ファン層の誘客が引き続き見込めることから、関連イベントの支援等を継続します。さらに、聖地巡礼と市内観光を組み合わせた周遊企画の検討、西浦みかんの収穫体験プログラムの開発など、美しい景観や食の魅力をPRし、一次産業を学ぶための教育旅行など、多様なニーズを持つ観光客の獲得に努めます。

【らららサンビーチ】



【駿河湾越しの富士山】



【大瀬まつり】



【「ラブライブ！サンシャイン!!」の聖地】



【戸田エリア】

- エリアビジョン: 深海魚と海、スローライフ満喫観光

エリア戦略

キーワード:

海水浴場/深海魚/タカアシガニ/ヨット/スピリチュアル

静岡県が推進する「ガストロノミー」において、本エリアの象徴である「駿河湾越しの富士山とタカアシガニ」がポスターに採用されています。

本エリアでは、戸田ヨットレースが開催されるほか、有名雑誌で「スピリチュアルスポット」として赤い鳥居と青い海の景観が表紙に採用されるなど、写真映えを求める観光客にとって魅力的な要素があります。

また、戸田の塩は、「約 1,500 年前に天皇に献上された」と伝えられ、国内最北の地に自生する戸田たちばなは、「古事記にも記されている日本固有の柑橘」というストーリーを有するなど、文化的価値の高い資源に恵まれています。

さらに、漫画「ぽんこつポン子」は、戸田地区をモデルとしており、現在もファンを本エリアへひきつけています。

本エリアでは、納涼船体験、タカアシガニの甲羅の絵付け体験が好評で、欧米系の長期滞在客も増加しています。将来的には、著名な映像作家のミュージアム建設が計画されています。

こうした本エリアならではの魅力を活かし、都会の喧騒から離れたスローライフを満喫したい来訪者やワーケーション希望者をターゲットに誘客を図ります。

また、地域の貴重な資源である「深海魚」については、次世代を担う地域の子どもたちにも理解を促進し、シビックプライドの醸成を図るとともに、戸田深海魚まつりへの支援や駿河湾深海生物館の PR を行います。

【タカアシガニの甲羅のお面】



【諸口神社】



【戸田たちばな】



基本施策2 シビックプライドの醸成と住民参加型観光の促進

地域住民は日常的に美しい景色に触れているため、たとえそれが「沼津ならではの」魅力であっても、当たり前のものとして意識しにくく、むしろ、その良さを実感できるのは外部から訪れる人だと言われています。

シビックプライドの醸成は、人口減少対策だけではなく、交流人口の拡大や地域全体の活性化においても極めて重要です。

市民が自分の住むまちを愛し、誇りに思えるからこそ、観光客も自然に地域の魅力を感じ取ることができるため、ローカルマーケット等の地域資源を体験できるイベント等を通じてシビックプライドを高めるとともに、観光客が感じる魅力を住民にも実感させることを目的に、地域住民と観光客の接点を増やす取り組みを推進します。

また、観光客の中心となっている日本人やアジア人旅行者だけでなく、文化・歴史・自然体験といった体験価値に関心が高いと言われる欧米圏の観光客も取り込むことにより、地域が多様な視点を得られ、魅力の深化につながります。

加えて、課題となっている地域内の連携が不可欠であるため、有識者や事業者を含む関係者による施策の点検・評価を毎年行い、効果的な施策や事業を実施していく必要があります。

【具体的な取組】

- ・【重点新規】ローカルマーケット等の地域資源を体験できるイベントや地域の伝統文化・行事のPR
- ・【重点新規】観光に関わる有識者・事業者による施策の点検・評価の実施
- ・【新規】市民ライターによる情報発信
- ・【継続】地域住民による観光ボランティアガイドの育成
- ・【継続】出前講座による市民学習機会の拡大
- ・【継続】イベントでの地域ボランティアの募集

【原海岸と地引網】



【おんべこんべ】



観光振興の柱② 沼津の魅力の戦略的発信

基本施策1 SNS 発信・デジタルマーケティングの強化

本市の魅力を全国・世界へ広げるため、SNS やオンライン広告を活用したデジタルマーケティング戦略を本格的に展開し、観光客が「訪れたい」と感じるきっかけをデジタル上で創出し、目的地としての認知度向上と来訪者数の増加を目指します。

現在、多くの方が日常的に SNS を利用しており、SNS で発信された写真をきっかけに観光地を訪れる来訪者(インバウンドを含む)も珍しくありません。本市も積極的に SNS を活用し、魅力を発信していく必要があります。

さらに、訪問前に検索エンジンで本市の観光情報を調べる方に向け、より訴求力の高い情報を届けるため、SNS 発信とデジタルマーケティングの強化に取り組みます。

【具体的な取組】

- ・【重点新規】利用者ニーズ等を踏まえた既存の観光情報サイトの改良と SEO 対策※
- ・【新規】SNS を活用した観光戦略の実施
- ・【新規】地元の協力者や学生と連携した沼津の魅力の発信
- ・【新規】「駿河湾越しの富士山」、「深海魚」、「港町」をテーマにした写真の活用



【出典】沼津観光ポータル

<https://numazukanko.jp/>

※SEO とは「検索エンジン最適化」を意味する、Search Engine Optimization の略称で、ここでは、検索エンジンで上位表示させるための対策をいう。

基本施策2 首都圏向け誘客キャンペーンの実施

沼津駅は、首都圏から新幹線及び在来線でアクセス可能な好立地にあり、首都圏からの誘客に向けてより一層力を入れる必要があります。「ふるさと応援基金」寄附金寄附件数は、前回ビジョンの目標値を大きく上回りました。また、寄附の使い道を紹介する「ふるさと納税ドキュメンタリー」では、戸田地区で行われている「深海魚」を活用した取組が紹介され、話題となったことを踏まえ、ふるさと納税返礼品と連携した取組を推進します。

さらに、本市は 2021 年9月、テレワーク環境が充実している自治体として全国5位、東海4県で1位に選ばれました。テレワークやワーケーション、働く場所をシェア(共有)する新しい働き方が市内で広がりを見せており、首都圏からのアクセスが便利な本市の特性を活かした PR を継続します。

【具体的な取組】

- ・【新規】「近場リゾート」やテレワーク等の PR
- ・【新規】ふるさと納税返礼品と連動した「沼津体験」の PR
- ・【継続】首都圏メディアへの出演



【出典】沼津市ふるさと納税サイト

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/furusato/>

基本施策3 広域連携による周遊プロモーション

近隣市町との連携により静岡県東部全域及び伊豆半島エリアをより盛り上げることは、結果的に本市の観光振興につながるため、広域連携は重要です。伊豆・箱根・富士山エリアの共同パンフレットの活用や、近隣自治体との観光相互 PR など、連携・協調を一層図ります。

また、広域周遊圏(沼津－三島－伊豆－富士－清水)の形成と共同プロモーションの実施は、「日帰り」から「滞在」への転換にも寄与します。

インバウンド観光客は、新幹線で移動し、バスやレンタカーで近隣自治体を観光している現状が見られるため、こうした観光客を本市に誘導するための取組をより一層推進します。

【具体的な取組】

- ・【重点新規】沼津観光ポータルを活用した広域観光の推進に向けた情報発信
- ・【新規】「ゴールデンルート」上の周遊モデルコースの作成
- ・【新規】近隣自治体との観光相互 PR
- ・【継続】富士・箱根・伊豆エリアの共同パンフレットの活用(美しい伊豆創造センター等との連携)

【大淵笹場(富士市)】



【清水港土肥線】



【三嶋大社(三島市)】



【出典】(一社)美しい伊豆創造センター

観光振興の柱③ 沼津ならではの観光の提供

基本施策1 滞在型・体験型観光コンテンツの開発

本市は首都圏から約 100 キロメートル圏に位置し、日帰り旅行が可能です。が、“宿泊”という選択肢を取っていただくための工夫が必要です。

本市には、離島のリゾートホテル、アニメの舞台となった「聖地」宿、国際的な旅行者をひきつける海沿いのゲストハウス、駿河湾の海の幸を楽しむ旅館、駅近の大型ホテルなど、多様な宿泊施設がありますが、宿泊客数は伸び悩んでいます。

そのため、朝市やナイトタイムエコノミーに着目し、早朝や夜といった「宿泊しないと体験できない、沼津ならではの」コンテンツを検討・開発します。

【具体的な取組】

- ・【重点新規】本市ならではの Bar 文化も活用した既存の飲食店との連携によるナイトタイムの魅力発信
- ・【新規】地元漁業者等と連携した朝市・漁港体験イベント等の実施
- ・【継続】富士山ビュースポットやサイクリングコースの活用

【ダルマタ日】



【沼津の BAR 文化】



【夜の御成橋】



【沼津魚市場セリ】



基本施策2 沼津版 都市型観光の推進

都市型観光とは、歴史・文化・芸術・商業・娯楽・サービスなどが集積した都市空間を舞台に、観光客が多様な体験を楽しむ観光形態です。

市民に馴染み深いソウルフード(餃子、パスタ、パンなど)であっても、市外から訪れる観光客にはあまり知られていない場合があります。しかし、美味しい食事は旅行客にとって、最大の楽しみの一つであるため、本市ならではのソウルフードやブランド食材の発掘・発信を強化します。

さらに、本市にはプロスポーツも開催可能な総合体育館や、芸術文化の拠点施設である市民文化センターが沼津駅から徒歩圏内にあり、香貫山や沼津アルプスといった自然も身近です。加えて、沼津御用邸記念公園などの歴史・文化施設も存在します。

これらの資源を活かし、中心部エリアの食・スポーツ・文化を核とした、「沼津版 都市型観光」を推進します。

【具体的な取組】

- ・【重点新規】沼津ならではの当地グルメやソウルフードの発掘と情報発信
- ・【継続】中央公園や狩野川の水辺空間を活用したにぎわい創出
- ・【継続】沼津御用邸記念公園と連携したイベントの開催
- ・【継続】フェンシングやサッカー等のプロスポーツを活用したスポーツツーリズムの推進

【沼津御用邸記念公園(青銅門)】



【我入道の渡し船】



【フェンシング(F3BASE)】



【総合体育館】



観光振興の柱④ インバウンドの誘客推進

基本施策1 台湾・東アジアを中心としたプロモーション

本市出身の飯田豊二技師が高雄市に下淡水溪鉄橋を建設した縁で、本市は2024年12月に台湾の高雄市と観光交流促進協定を締結しました。また、美しい伊豆創造センターも台湾観光協会と包括的連携協定を締結しており、本市は東アジアからの誘客をメインターゲットとして取組を進めています。

具体的には、インフルエンサーや会社を招へいするファムトリップなどの誘客施策や高雄市との交流事業を継続し、台湾を中心とした東アジアの方々に本市への関心を高めてもらい、リピーターとなっていただくための取組を積極的に進めます。

【具体的な取組】

- ・【重点継続】高雄市との観光交流促進協定を活かした相互 PR
- ・【新規】近隣自治体との合同出展による国際旅行博等での PR
- ・【継続】SNS を活用した台湾向けプロモーション
- ・【継続】県や近隣自治体と連携した旅行会社へのセールス

【飯田豊二技師が建設した下淡水溪鉄橋】



【日台高雄フルーツ祭への出展】



下淡水溪鉄橋とは…

全長 1,526m の橋梁を誇り、1913 年の竣工当時はアジア最長の大鉄橋であった。

現在は、当時の構造を再現して修復され、空中歩道として人気観光スポットとなっている。

基本施策2 在住外国人と連携した戦略的プロモーションと多言語対応など受入環境の整備

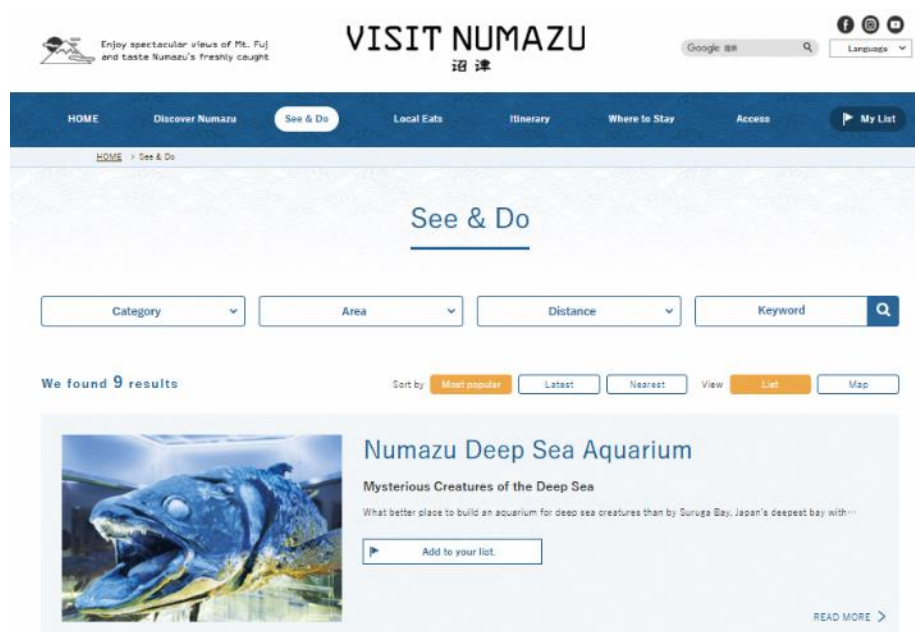
沼津駅は、首都圏から新幹線及び在来線でアクセス可能な「ゴールデンルート」上の好立地であり、インバウンド宿泊客の獲得に向け、重点的かつ戦略的な取組が必要です。

インバウンド誘客においても、SNS の活用は重要です。日本在住の外国人に、本市の魅力的な写真を母国語で投稿してもらう取組を新たに実施します。

また、沼津観光ポータルサイトの多言語化を進めるとともに、主要観光スポットにおける Wi-Fi 環境の整備など、受入環境を整備します。

【具体的な取組】

- ・【重点新規】在住外国人等による、母国の SNS での沼津の観光情報の提供
- ・【新規】沼津観光ポータルサイト、聖地巡礼ガイドマップ、沼津港周辺飲食店マップ等の多言語での発信
- ・【継続】主要観光スポットにおける Wi-Fi 環境の整備や多言語案内板の設置・拡充



【出典】沼津観光ポータル(English)

<https://trip.numazukanko.jp/spot>

参考資料

1. 観光振興ビジョン改定懇話会委員名簿（2025 年 10 月 28 日現在）

	氏名(敬称略)	所属団体等
1	穴戸 学	日本大学国際関係学部 国際総合政策学科 教授
2	望月 善人	特定非営利活動法人沼津観光協会 会長
3	土屋 雄二郎	沼津商工会議所観光サービス業部会 部会長
4	小森 裕之	沼津市旅館ホテル組合連合会 理事
5	渡邊 一弘	沼津バス協会 伊豆箱根バス株式会社 三島営業所長
6	佐野 智行	東海旅客鉄道株式会社沼津駅 首席助役
7	顔 嘉瑢	株式会社 TIL
8	山本 恵利香	戸田観光協会 事務局
9	田中 三智子	公募委員
10	青木 恵美	公募委員
11	峯 知美	公募委員

2. 観光振興ビジョン改定懇話会開催およびパブリックコメントの実施

(1)観光振興ビジョン改定懇話会

	開催日	議題
第1回	2025 年 10 月 28 日	・現行の「沼津市観光振興ビジョン」振り返りについて ・沼津市観光振興ビジョン骨子案について
第2回	2025 年 12月15日	・沼津市観光振興ビジョン(案)について
第3回	2026年 2月 25日	

(2)パブリックコメントの実施

	内容
募集内容	沼津市観光振興ビジョン(案)について
募集期間	令和7年 12 月 18 日(木) ～ 令和8年1月 19 日(月)
閲覧場所	市ホームページ、市役所、各市民窓口事務所、市立図書館
意見等の件数	
結果の概要	

numazukanko.jp



沼津市観光振興ビジョン

発行：沼津市役所産業振興部観光戦略課

☎055-934-4747 ✉ kanko@city.numazu.lg.jp



作成日：2026 年3月